

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	構造工学論文集編集小委員会	主 査 名：渡邊史夫 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会	委員長名：和田 章
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 1 編につき 3 名による査読付き論文集『構造工学論文集』を毎年 1 回刊行し、登載論文を中心としたシンポジウムを開催することにより、産・官・学、各界の研究者・技術者に学术交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を図ることを目的にする。</p> <p>2006 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 査読付き論文集『構造工学論文集』Vol.53B の刊行 ・ 第 52 回構造工学シンポジウムの開催 (論文集掲載論文の発表講演および討議、特別講演会、建築・土木合同パネルディスカッション) 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無 (構造工学にかかわるあらゆる分野が論文の対象となるため、各運営委員会主査を委員に配するなどして、分野構成には特に考慮している)</p> <p>主 査 渡邊 史夫 (京都大学工学研究科建築学専攻)</p> <p>幹 事 田村 修次 (京都大学防災研究所地震災害研究部門構造物震害研究分野)</p> <p> " 中埜 良昭 (東京大学生産技術研究所第 1 部)</p> <p> " 山田 哲 (東京工業大学建築物理研究センター)</p> <p> " 山田 聖志 (豊橋技術科学大学工学部建設工学系)</p> <p>委 員 大森 博司 (名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻)</p> <p> " 神田 順 (東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻)</p> <p> " 崎野 健治 (九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門)</p> <p> " 鈴木 秀三 (職業能力開発総合大学校 建築工学科)</p> <p> " 竹脇 出 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻)</p> <p> " 時松 孝次 (東京工業大学理工学研究科建築学専攻)</p> <p> " 中島 正愛 (京都大学防災研究所)</p> <p> " 中塚 佳 (大阪工業大学工学部空間デザイン学科)</p> <p> " 林 静雄 (東京工業大学建築物理研究センター)</p> <p> " 三浦 賢治 (広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻)</p> <p> " 宮崎 祐助 (広島工業大学工学部建設工学科)</p> <p> " 山崎 裕 (横浜国立大学大学院工学研究院)</p> <p> " 和田 章 (東京工業大学建築物理研究センター)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)		
2006 年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s11/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物(シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 第 52 回構造工学シンポジウム 参加者数 361 名 『構造工学論文集 Vol.52B』 『第 52 回構造工学シンポジウム』 特別講演会「構造工学の発展に大型構造実験は寄与できるのか - 期待と不安」 (参加者数 90 名) 建築・土木合同パネルディスカッション「大型実験による構造工学の新たな挑戦」 (参加者数 80 名)</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. すべて滞りなく達成した。
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 主催者である日本学術会議土木工学・建築学委員会並びに共催の土木学会構造工学委員会・論文集編集小委員会と、論文集出版等の詳細について、今後とも十分な事前調整が必要。</p> <p>2. 建築分野の投稿論文題数が年々減少を続けていることに対する対策。</p>